

コンタクトレンズから広がる、 多様な「見える」をサポートしています。

近視用だけでなく、遠視・乱視・遠近両用やニッチな度数を幅広くカバーする使い捨てコンタクトレンズを中心に、オルソケラトロジーレンズやトリガーフィッシュシステムといった医療用の商品を広く展開し、日本のみならず、欧州・アジアをはじめとする世界のお客さまの多様な「見える」をサポートします。

SEED

「見える」をサポートします

使命 「眼」の専門総合メーカーとして、 お客様の「見える」をサポートする

社名の由来

無限の新分野に種をまき、結実した「成果」を収穫し続けることで、皆さまの「見える」を、より一層サポートしたいという想いが込められています。

編集方針

SEED Reportは、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、当社グループへの理解を深めていただくことを目的として作成しました。当社グループの強みや特徴、価値創造に向けた取り組み、今後の成長戦略等、財務・非財務両面から総合的に報告しています。

なお、本レポートの編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)の開示フレームワークを参考にしました。

対象期間: 2021年4月1日～2022年3月31日
(一部に対象期間外の内容を含みます)
対象組織: (株)シードおよび国内外の連結子会社

掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保障するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。

目次

シードの価値創造	販売戦略(国内)(海外)	16	内部統制・リスク管理	26
提供価値	R&D戦略	18	製品の安全確保と品質保証	27
価値創造の歩み	生産戦略	19	社会貢献	28
At a Glance	人材戦略	20	多様な人材の確保	30
価値創造プロセス			環境課題解決に向けて	32
	シードのESG			
シードの戦略	担当役員メッセージ	21	財務・非財務データ	34
社長メッセージ	役員一覧	22	会社概要	35
財務戦略	コーポレート・ガバナンス	23		

たとえば、
多彩な商品
ラインアップを展開



たとえば、
時代のニーズに先駆けた
コンタクトレンズを販売

オルソケラトロジー
レンズ トリガーフィッシュ
システム



たとえば、
40以上の国と地域へ
グローバルに対応



創業以来、高い技術力を活かし、多様なニーズに応える商品を創出し続けてきました。

シードは眼に関する様々な商品を開発し、お客さまの「見える」に貢献してきました。現在も、多様化するニーズにきめ細かに応える高品質・高付加価値の商品を提供し続けています。

商品の歩み

1960 ~ 1996

コンタクトレンズの普及に向けて

1972年に日本初のソフトコンタクトレンズを発売して以来、装着感の良さを追求し、1984年には「マイコンHi-O₂」を発売するなど、ソフト・ハードともに改良を重ね、新商品を世の中に送り出してきました。

1972年 [ソフト] ソフトコンタクトレンズを発売
日本初のソフトレンズ

1984年 [ハード] 酸素透過性の高い新素材を採用ハードコンタクトレンズ「マイコンハイO₂」を発売

1985年 ブランド名を「シード」に変更し、テレビCMを開始。ハイセンスなブランドイメージを浸透

1992年 [ケア] ソフトコンタクトレンズケアシステム「コンセプト F」を発売
煮沸消毒不要のケア用品

使い捨てコンタクトレンズニーズに向けて

1991年、日本市場に使い捨てコンタクトレンズが投入され、需要が高まるなか、1997年に当社初の2週間・1ヵ月交換型の使い捨てコンタクトレンズを発売しました。2007年には60億円を投じた鴻巣研究所が竣工し、国産初の高品質な使い捨てコンタクトレンズの大量生産を実現しました。また、2012年に発売した、新発想のサークルレンズがさらなる成長を支えました。

1997 ~ 2012

2009年 [ワンデー] 1日使い捨てコンタクトレンズを発売
初の国産ワンデー

2012年 [ワンデー] 瞳の輪郭を際立たせるサークルレンズを発売

付加価値のあるコンタクトレンズニーズに向けて

当社では、デジタルデバイスによる瞳のストレス軽減を目指して開発した新設計レンズ等、時代に先駆けて、新たな付加価値のあるコンタクトレンズを商品化してきました。今後もこうした最先端の研究成果を蓄積し、欧州のグループ会社との連携も深めながら、高機能・高付加価値のコンタクトレンズを開発していきます。

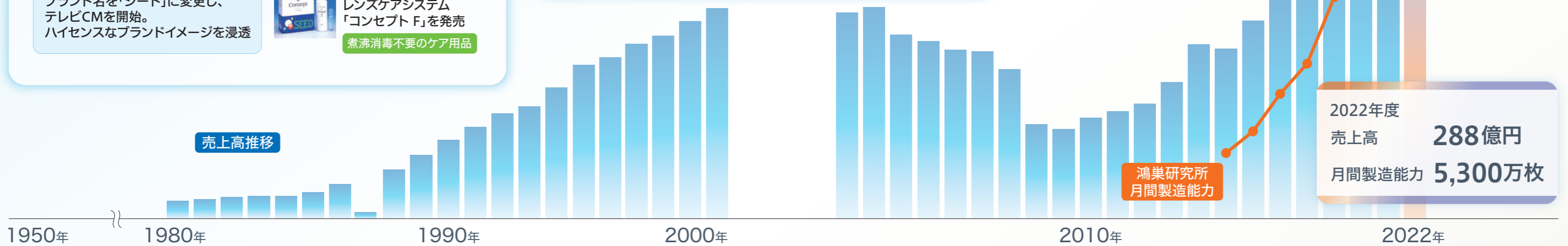
※ EDOF (拡張焦点深度) の原理を採り入れたコンタクトレンズとして承認を取得し、日本で初めて製品化

2013年 オルソケラトロジーレンズ「プレスオーコレクト®」の一次代理店として販売を開始

2018年 スマートコンタクトレンズの国内承認を取得
シード独自

2019年 [ワンデー] EDOF原理を採用した遠近両用コンタクトレンズを発売
日本初、医療発※

2020年 [ワンデー] デジタルデバイス使用時の瞳のストレス軽減を目指して開発したコンタクトレンズを発売



開発・生産の歩み

1951年 日本初のコンタクトレンズ研究を開始

1957年 量産化に成功
球面切削旋盤の製法により、1日に20人分のコンタクトレンズの量産化に漕ぎ着ける

1987年 株式会社シードに商号変更

1988年 大宮研究所設立。NC旋盤を導入し、自動化の緒に就く

埼玉県に設立した大宮研究所に初めてNC旋盤を導入し、それまでは手づくりだった製造工程が、自動化の緒に就いた

1991年 桶川研究所設立。本格的な生産ライン立ち上げ

桶川研究所を設立すると、本格的な生産ラインが立ち上がり、効率的な生産に向けて改善が進められた



2007年 鴻巣研究所設立。徹底した効率化で大量生産開始

大量生産体制の構築により海外メーカーと互角に競うことが可能となり、高い品質で多品種少量生産にも対応する柔軟性ある生産ラインを実現した



2018年 高度な設計技術をもつ英国 Contact Lens Precision Laboratories Ltd. の株式取得

CLPL社の特殊レンズやカスタマイズレンズの高度な技術や知識を活かすことで、質の高いコンタクトレンズの開発を進め、効率的な大量生産を実現した

2020年 鴻巣研究所で倉庫棟が稼働し、国内外の出荷増へ

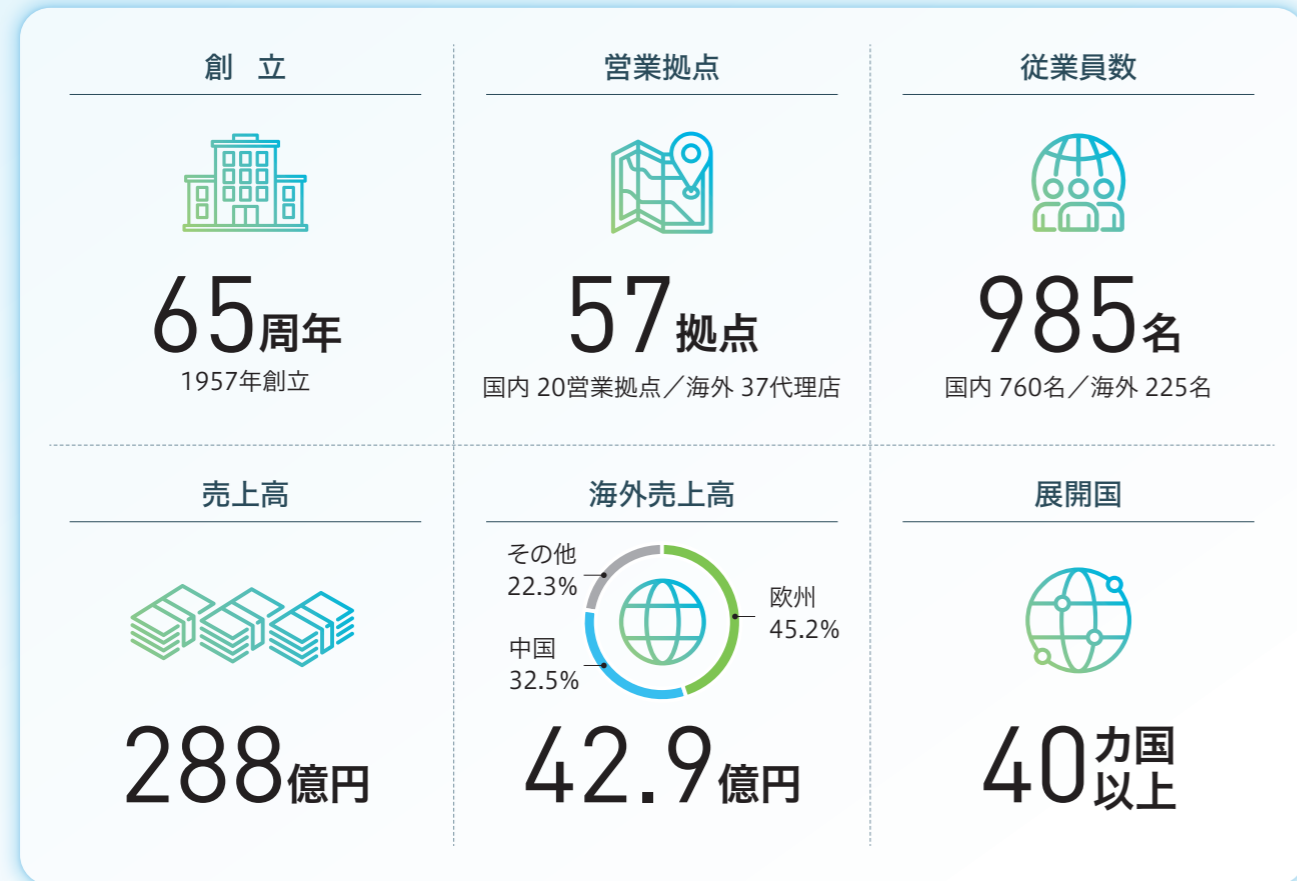
国内外への出荷増を見込み、製品の安定した在庫を確保するほか、工場内物流の省人化と自動化を実現。今後は得意先への製品直送を予定



「眼」の専門総合メーカーとして サステナブルなモノづくりで社会に貢献します。

シードは「見える」をサポートするという使命のもと培ってきた高い技術力により、「眼」の専門総合メーカーとして社会に貢献しています。

プロフィール



ESG



商品力



生産力



※当社調べ

開発力



日本のパイオニアとして常に新分野に挑戦し、 より多くの「見える」に貢献しています。

シードは、使い捨てレンズの利便性やサークル・カラーレンズのファッション性等、市場ニーズに柔軟に対応し、コンタクトレンズの可能性を追求してきました。これからも「見える」の課題に向き合い、新たな価値創造に挑み続けます。

外部環境の変化

- 少子高齢化の進展
- 人口減少の加速
近視人口の増加
- 世界経済の不透明感
- デジタル革新の加速
- 就業意識の変化
(ワークライフバランスの進展)
- 気候変動問題の本格化
- 海洋プラスチックごみ
問題の深刻化

SEED

「見える」をサポートします



シードの強み

より多くの「見える」を
サポートする

**多様な商品・
事業展開**

高品質な多品種
少量生産を実現する

**Japan
Quality**

未来の「見える」に
挑戦し続ける

**積極的な
研究開発**

中期経営計画

- 市場競争力の強化・
収益力の強化
- 信頼されるモノづくり
- SDGsの推進
- 安定した株主還元

価値創造基盤

- 品質
- 人材
- 環境
- ガバナンス



社会への創出価値

- 世界中の人々のQOL向上
- 視力矯正医療への貢献
- 高付加価値商品の提供
- 安定的なサプライチェーン実現

ビジョン 「見える」に 新たな価値を

- 高品質な商品・サービス提供
- ダイバーシティ&
インクルージョンの推進
- カーボンニュートラルの推進
- サークュラー
エコノミーの実現

少子高齢化をはじめ劇的に変化する 国内外のお客さまニーズを見据えて

デジタル機器の普及で世界の近視人口が増加し、特に子どもの視力低下が深刻になっています。人口減少の局面にある日本でも、コンタクトレンズ装用が低年齢化し市場は微増傾向です。また高齢者人口が増加し、遠近両用レンズの需要が高まる等、ニーズが多様化しています。一方、プラスチックを取り扱うメーカーとして、環境問題への対応も不可欠です。

これからの「見える」をカタチにする 専門総合メーカーとしての強みを活かして

当社では、幅広い度数展開や見え方、装用感、ファッション性等、様々な視点からお客さまのニーズに応える商品を開発し続けてきました。国内一貫生産を実現する鴻巣研究所から、高品質の製品をお届けしています。また、近視進行抑制、医薬との融合、デジタルデバイスとの融合等、未来の「見える」に貢献するための研究開発を強化しています。

ステークホルダーと協働し、 より多くの方々の「見える」に貢献

当社は、ステークホルダーとの信頼関係の構築を最重要項目としています。なかでも、大学や研究機関、他社との協働による研究開発や人材交流を積極的に推進し、さらなる価値を生み出しています。そのほか、お客さま・株主・投資家・取引先等、様々なステークホルダーと対話の機会を設けており、それらを踏まえて、シードのあるべき姿の実現のために、事業活動の改善を図っています。

